

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 委員長挨拶

「火曜日からの大寒波で、全国各地で大雪となっている。私は、所用で月曜日から本日まで東京にいた。東京は青空であったのに、島根の雪の多さには驚いた。幸い大きな被害はなかったようで少し安心している。

また、先週、中国四国管区内での災害救助訓練の様子をニュースで見た。平素からのこのような訓練の繰り返し、いざという時に大事であると改めて感じた。」旨の発言があった。

警察本部

2 議題

警察職員の援助要求「竹島の日」記念式典等に伴う警備実施の概要

警察職員の援助要求及び「竹島の日」記念式典等に伴う警備実施の概要について説明があり、原案のとおり決定した。

警察本部

3 報告

(1) 令和5年度当初予算案の概要

令和5年度当初予算案の概要について報告があった。

警察本部

(2) 苦情の取扱状況（令和4年12月）

苦情の取扱状況（令和4年12月）について報告があった。

警察本部

(3) 年末年始随時監察実施結果

年末年始随時監察実施結果について報告があった。

警察本部

(4) 株式会社ヤマップとの「遭難ZERO協定」締結

「この度の協定締結は、株式会社ヤマップが運営するGPSアプリ『YAMAP』を活用しての登山計画の閲覧、遭難者位置情報の取得等により、県内での山岳遭難防止及び山岳遭難者の早期発見を図ることを目的としている。GPSアプリ『YAMAP』とは、全国の登山愛好家約340万人が登録する国内最大の山岳アプリである。スマートフォンアプリで作成した登山計画を登録すると、登山計画書として自動的に株式会社ヤマップと協定を締結している自治体、警察に提供される仕組みで、登山者は登山した山のルートや距離をアプリ内で自動的に記録することができる。令和5年1月23日に締結式を行った。締結内容は、登山計画書の閲覧、遭難者の位置情報の取得及びYAMAPを利用している捜索隊員の位置情報の取得である。今後も山岳遭難防止のために、

関係機関と連携して各種啓発活動を推進していく。」旨の報告があった。

委員 [意見] 「このようなアプリやシステムを簡単に活用できるようになれば、1件でも山岳事故は少なくなるのではないか。」

警察本部 [説明] 「このアプリを使用している人同士が道中ですれ違った場合、その位置が記録されるので、一方が遭難した際は、すれ違った最終位置が分かるようになる。」

委員 [意見] 「プライバシーの問題があるかもしれないが、人命の安全が保たれることになるので良いと思う。」

委員 [意見] 「登山者の届出は必要だと思う。色々な方々が協力的になってもらえることは心強いと感じる。」

(5) 「110番の日」の取組結果

警察本部 「110番の日とは、110番通報の適切な利用を図るため、警察庁が定めたもので、昭和61年から毎年1月10日を110番の日として適切な利用促進を啓発するものである。県内での主な活動の1つ目は、通信指令課による一日通信指令長の任命式である。これは、松江市内の幼稚園児3人を一日通信指令長に任命し、模擬110番の受理、指令を行うなど、県民に110番通報の仕組みや適切な利用について呼びかけたものである。2つ目は、松江署による広報啓発イベント「松江署だヨ！イオンに全員集合」である。これは、地域ぐるみでの安全・安心な街づくりに向け、警察活動を正しく理解してもらうための大型イベントをイオン松江店で開催したものである。職業体験、各種警察活動の紹介、展示などを内容とする9つの参加型ブースを出展し、110番通報の適切な利用についても呼びかけたものである。3つ目は、出雲署による、大型商業施設での110番の日広報啓発活動である。これは、ゆめタウン出雲において、警察のマスコット及びキャラクターを活用し、適切な110番利用について呼びかけたものである。4つ目は、益田署による『110番』、『118番』適正利用PRイベントである。これは、ゆめタウン益田において、浜田海上保安部と連携した『110番』、『118番』の適正利用についての警察マスコット及び海保キャラクターを活用したPRイベントを開催したものである。5つ目は、安来署、大田署及び津和野署によるCATVを活用した広報啓発活動である。地元ケーブルテレビに警察官が出演し、110番の適正利用等について呼びかけたものである。次に、令和4年中の110番通報受理状況であるが、総受理件数は50,985件で前年比4,297件増、うち有効件数は39,341件で前年比1,635件増、うち非有効件数は11,644件

で前年比2,662件増、うちいたずら・誤接・無応答は8,166件で前年比2,758件増であった。平均レスポンスタイムは7分50秒で前年比1秒減であった。」旨の報告があった。

委員 [意見] 「110番の日について、県下一斉に活動することは有効である。各署が工夫して活動していることは分かるので、来年もPRしてほしい。」

委員 [意見] 「非有効件数が多い。どこに相談していいか分からずに110番する人がいるのではないか。＃9110の存在を知らない人も多いのではないか。」

警察本部 [説明] 「緊急ではない相談等は、警察相談専用電話へ架けるように今回の取組に合わせて広報している。」

委員 [意見] 「やはり周知が大切である。映像通報システムも有効活用できるよう折に触れ周知してほしい。」

委員 [意見] 「今回出雲署の広報啓発活動を見た。親子連れが多く、特にパトカー、白バイ展示に人が集まっていた。色々な広報の仕方があると思うが、県民に広く周知するために、良い施策を他署も取り入れていけばいいのではないか。」

(6) 強盗事件被疑者の逮捕

警察本部 「被疑者は、コンビニエンスストアにおいて、店員にナイフを突きつけて脅迫し、おにぎり1個等4点を奪ったものであり、令和5年1月16日に強盗の罪で緊急逮捕した。」旨の報告があった。

委員 [意見] 「事件発生から逮捕に至るまでの連携が素晴らしい。もし、これが犯人が未発見であった場合のことを考えると、また何をしでかすか分からないところであり、早く逮捕できて良かった。」

委員 [意見] 「速やかな対応により、逮捕に至ってよかった。警察官の現場での対応が素晴らしい。犯人が今後社会に戻ってきたことを考えると心配である。」

委員 [意見] 「連携は大事である。きちんと対応していると思う。早い対応でよかった。」

(7) 嘱託警察犬及び指導手に対する本部長感謝状の贈呈

警察本部 「令和4年10月26日午前4時50分頃、益田市中吉田町地内において発生したタクシー強盗事件に関して、事件解決に功労のあった嘱託警察犬指導手の磯辺祥平さんと、嘱託警察犬のジャスパー号に対し、令和5年1月18日、益田警察署において島根県警察本部長感謝状の伝達式を行った。功労としては、事件発生後、出動要請を受けた磯辺祥平さんは、ジャスパー号と共に迅

速に出動して、逃走被疑者の捜索など粘り強く現場活動を行い、その結果、現場付近における遺留品の発見や、被疑者の逃走経路を解明するなど事件解決に大きく貢献したものである。」旨の報告があった。

委員 [意見]「以前、消防団員として行方不明者の捜索をする際、2回警察犬に来てもらった。いずれも、人目に付かない場所から行方不明者を発見してくれた。指導手による指導の仕方が良いのではないか。指導手を絶やさないようにしてほしい。」

委員 [意見]「この指導手は、職業としているのか。」

警察本部 [説明]「職業としており、他の犬も預かって訓練している。」

委員 [意見]「出動に際して、報酬はないのか。」

警察本部 [説明]「出動に対する謝金は渡しているが、訓練期間に対する報酬はない。」

委員 [意見]「犬への愛情がなければ指導手は務まらないと思う。補助金などがあれば良いと思う。」

委員 [意見]「警察犬のお陰で早く犯人を捕まえることができたと思う。警察犬の役割は重要である。」

(8) 令和4年中における交通事故発生状況

警察本部 「交通事故の発生状況について、発生件数及び負傷者数は速報値であるが、全国では、発生件数は301,193件で前年比4,003件減、死者数は2,610人で前年比26人減、負傷者数は356,419人で前年比5,712人減であった。死者数は、6年連続で戦後最少を更新し、発生件数、負傷者数ともに18年連続で減少した。県内では、発生件数は766件で前年比8件減、死者数は16人で前年比6人増、負傷者数は835人で前年比33人減であった。死者数は、昨年と比べて大幅に増加したが、発生件数、負傷者数はともに、昨年と比べて微減した。県内の交通死亡事故の特徴として、高齢者死者は前年と比較して増加し、全死者に占める割合は75%と高い。中学生以下の子供の死者はいない。夜間、国道及び交差点における交通死亡事故は前年より増加した。飲酒運転による交通死亡事故は1件発生した。自転車による交通死亡事故は1件発生した。」旨の報告があった。

委員 [意見]「傾向としては減ってきていると思う。交通安全計画で掲げた目標値の達成に向けて頑張ってもらいたい。」

委員 [意見]「交通安全指導の徹底と、車の安全性能の高度化によって交通事故が少なくなっていることは好ましい。当県は車がないと生活しにくく、高齢者でも車を手放せない人もいると思うが、交通安全指導をよろしく願います。」

委員 [意見]「高齢者が夜間に歩かないように、家族による見守りは大切だと思う。運転者にとって何か目標があると、気をつけて運転するのではないか。」

(9) 令和4年度中国四国管区広域緊急援助隊合同訓練の実施

警察本部 「近年、多発する風水害・土砂災害発生時に迅速かつ的確な災害警備活動を実施するため、各県部隊間の連携強化及び救出技術向上を図るため、令和5年1月17日から同年1月18日までの2日間、岡山県和気郡和気町吉井川河川敷において、中国四国管区警察局主催、岡山県警察共催による訓練を行った。中国5県及び四国4県の警察から308人が参加した。当県からは、島根県広域緊急援助隊18人、島根県情報通信部機動警察通信隊2人が参加した。その他の機関では、東備消防組合、おかやまDMAT、陸上自衛隊及び和気町から35人が参加した。線降水帯により岡山県内で記録的な豪雨となり、河川の堤防が決壊、多数の建物及び道路が損壊したほか、浸水による被害が発生したという平成30年の西日本豪雨災害を想定した訓練を行った。島根部隊が関係する訓練内容は、救出救助訓練、緊急通行車両等確認標章交付訓練、遺体受付、検視、身元確認訓練及び遺族対応訓練、野営訓練であった。令和6年度に同訓練が島根県において開催される予定である。」旨の報告があった。

委員 [意見]「災害が発生した時、誰が何をすることを頭で分かっている行動に移せないものである。実際を想定して、現場で動いて訓練をすることが重要だと思う。他の機関と連携をとること。」

委員 [意見]「他の組織との連携が大事である。精神力の鍛錬がないと救出能力は発揮できないと思う。」

委員 [意見]「訓練を見たが、動きがきびきびして良かった。実際に災害が起こった時に、その動きができるかが重要である。訓練を重ねていくことによって現場での動きが向上すると思う。」

4 本部長総括

本部長 「強盗などの凶悪事件については、本県では絶対数は少ないものの、過去2年くらい増加傾向にある。こうした中、先般、コンビニ強盗やタクシー強盗を早期検挙できたことは、非常に意義があり、警察の組織力が発揮できたと思う。今後も継続できるようにしていきたい。昨年の交通死亡事故の特徴について、高齢者が多いということに加えて、発生時間や場所を見ると、夜間が3割、国道が6割、交差点が3割となっている。『夜間、国道、交差点』が対策のポイントになると思う。」旨の発言があった。

